

矢澤らしい

ふたつあった

今更ながら難しいことなのです  
倒れずいたのは風がなかったのです  
わたしが凄かったわけではなかったのです  
風のない地を行けたのはそれもわたしですが  
忘れる  
足が生えていた 私には  
動かせた 重かった 痛みがあった  
足の表面の色の奥に  
眠っていた 有象無象の無関心の先の  
そんな見えるように  
手を持って足を持って  
一歩  
ただの一步が輝く  
それだけでよし